

つながる力 ～人生の最終段階にある人を支える仲間づくり～

<施設・地域での取り組み>

野尻明子

【講義概要】

日本は超高齢社会になり、2030年には死亡者約160万人、そのうち約47万人が“看取り難民”となり死に場所を探し求めることになるかと予測されています。地域で人生の最終段階にある人を支えるためのシステム作り、人材育成が喫緊の課題になっています。そのため、ACP（アドバンス・ケア・プランニング：人生会議）にも注目が集まっています。これからわたしたちは、専門職としても、地域でくらす生活者としてもさまざまな人々とつながり、支え合うことが必要になります。作業療法士は環境（物や人、機関や制度など）に関わり、協働しながら（対等な双方向関係を築きながら）作業療法を進める専門職なので、地域のファシリテーターとしてぴったりの職種だと考えています。今回は、仲間づくり（連携）に必要なコミュニケーション、ファシリテーションなどについてお話をさせていただきたいと思います。

【略歴】

1984年作業療法士免許取得。熊本機能病院に7年間勤務したのち、フリーとなり老人保健施設、特別養護老人ホーム、機能訓練事業、訪問看護ステーションなどに非常勤として勤務。2007年～2019年3月まで熊本保健科学大学に勤務。現在、非常勤で特別養護老人ホームくわのみ荘、熊本刑務所支援チームメンバー兼担当理事。

熊本県作業療法士会理事、認定作業療法士、エンドオブライフケア援助士・ファシリテーター、折れない心を育てるいのちの授業認定講師、等